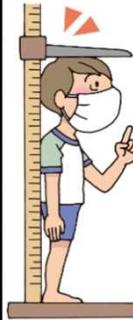


# 令和3年度 学校保健について

宇都宮市立ゆいの杜小学校 保健室 R4.1.26

## 1 身体計測結果について

身長		校内平均	全国平均
男子	1年	116.1	117.8
	2年	122.8	123.5
	3年	127.6	128.9
	4年	133.1	134.4
	5年	140.2	139.9
	6年	143.5	147.3



身長		校内平均	全国平均
女子	1年	116.1	116.7
	2年	121.3	122.7
	3年	127.5	128.2
	4年	133.7	133.3
	5年	142.0	141.5
	6年	147.0	148.3

体重		校内平均	全国平均
男子	1年	20.6	21.8
	2年	24.0	25.2
	3年	27.4	28.2
	4年	30.2	32.4
	5年	35.5	36.8
	6年	37.0	40.2



体重		校内平均	全国平均
女子	1年	20.7	21.3
	2年	24.2	24.2
	3年	27.4	26.7
	4年	29.9	30.3
	5年	34.8	34.5
	6年	40.2	41.5

肥満度		校内平均	県平均	全国平均
男子	1年	1.3	8.4	5.9
	2年	7.0	9.7	8.8
	3年	8.8	13.2	11.7
	4年	10.6	17.1	13.6
	5年	12.5	20.4	14.2
	6年	8.6	16.2	13.3

肥満度		校内平均	県平均	全国平均
女子	1年	1.4	5.6	5.2
	2年	12.1	8.2	7.3
	3年	18.0	11.8	8.9
	4年	3.6	9.2	9.3
	5年	6.0	9.9	9.5
	6年	14.6	11	9.4

令和3年度4月の身体計測の結果より校内平均を、全国平均、県平均と比較しました。

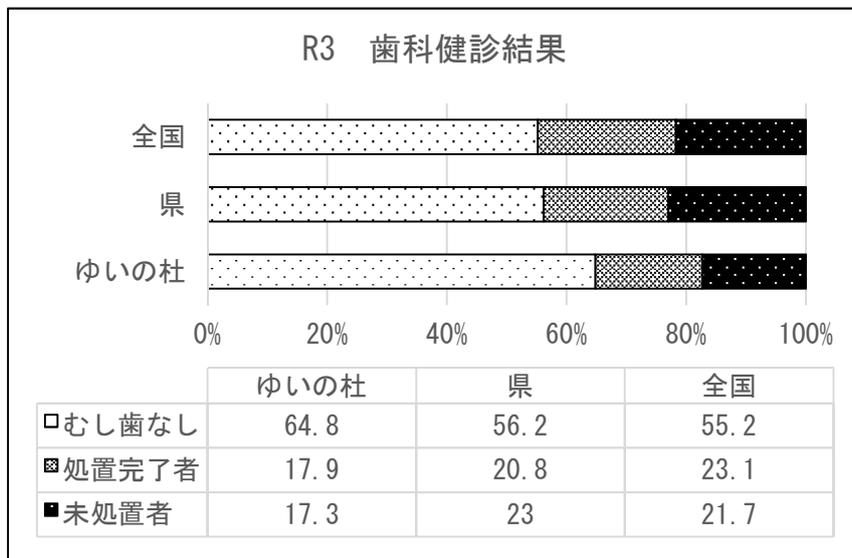
黄色は、校内平均値が、県・全国を超えるデータ、水色は、校内平均が、県・全国を下回る値が大きいデータを示したものです。

まず、男子の身長・体重については、5年生の身長が全国平均を超えましたが、それ以外の学年ではほぼ同じか、下回る結果となりました。肥満に関しては、どの学年も大きく下回っています。この結果により、男子の体格は、標準からやせ型が多いと考えられます。極度のやせ傾向児童や低身長の児童は見られませんでした。

次に、女子の身長・体重については、わずかではありますが4、5年生で身

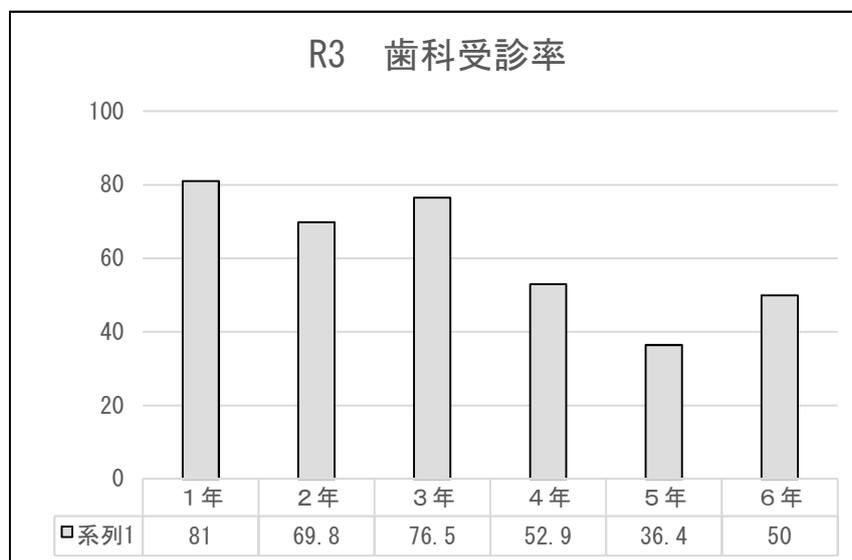
長が、3、5年生で体重が、全国平均を超えています。肥満度については、2、3、6年生で県・全国の平均を超えました。この結果により、女子全体では、標準的な体格であると考えます。しかし、学年によって差は見られました。3年生については、体重も肥満度も県・全国の平均を超えています。やや肥満傾向の児童がみられると考えます。また、5年生については、身長・体重ともに全国平均を超えましたが、肥満度については下回っており、バランスの取れた体格の児童が多いと考えます。女子の著しい成長期は小学校高学年に現れる児童が多く、高学年では、平均値が高い値を示しました。平均値はあくまでも参考値であり、個人の伸び幅を確認し、バランスの取れた体格を維持することが必要であると考えます。

## 2 歯科検診結果について



歯科検診の結果です。むし歯なし（むし歯が1本もない），処置完了者（むし歯を治療済み），未処置者（むし歯がある）の割合を調べ，校内の平均値を，県・全国と比較してみました。むし歯が1本もない児童は，全体の約65%で県・全国のデータを超える結果となりました。また，むし歯がある児童の割合は，約17%で県・全国のデータを下回っています。これらの結果により，本校児童のむし歯の罹患率は低く，良い結果となりました。

しかし，歯科検診では，むし歯はないものの，歯垢の状態や歯肉の状態を指摘される児童もみられました。歯垢の付着はやがてむし歯へ，そして，歯肉の状態の悪化は，歯周病へと進行してしまうことになりかねません。予防としては，食後の歯みがきをみがき残しなく丁寧にすることが必要です。口腔内の衛生環境を保ち，人生100歳世代，自分の歯でいつまでも美味しく食事を楽しむことができるように，小学生からのケアが必要だと考えます。

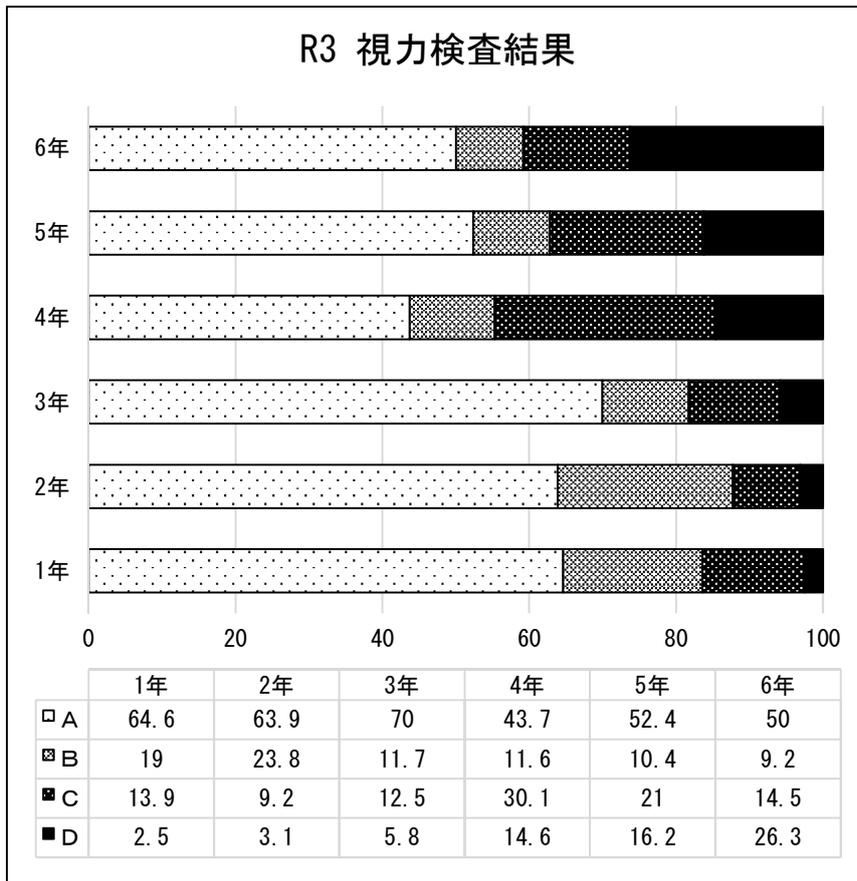


12月8日現在の歯科受診率を調べました。学年別で見ると，1年生の81%が最も高く，5年生の36.4%が最も低い結果となりました。本校全体では，64.2%で，歯科受診率は約65%にとどまっています。高学年になると，乳歯のみならず永久歯のむし歯の治療を必要とする児童もおり，早期の受診が必要と考えます。受診率向上のために，ほけんだより等を通して，引き続き啓発をしていく必要があります。

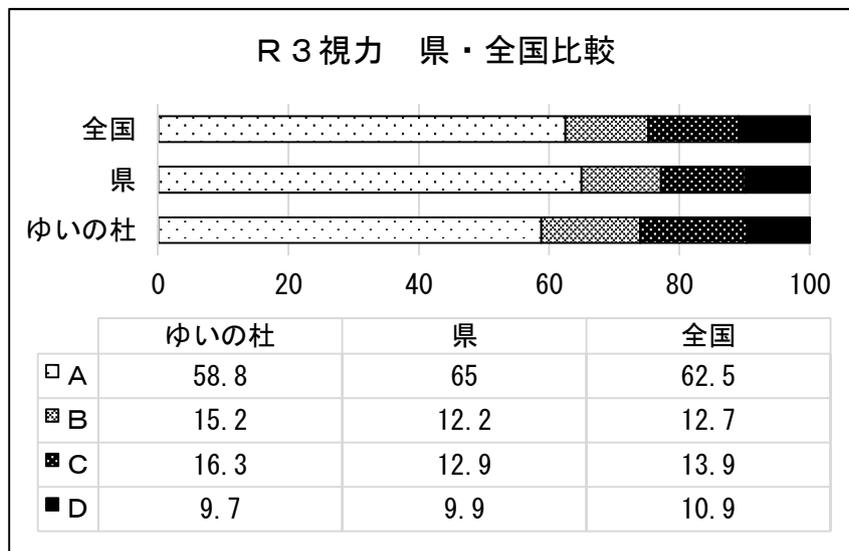


MEMO

### 3 視力検査結果について



視力検査結果を学年別で示したグラフです。視力A（両眼1.0以上）の児童の割合は、学年の進行に伴い減少しています。これは、全国的にも同様の傾向があり、学習時間が長くなることやデジタル機器の視聴時間の長さなどが要因となっていると考えます。特に、4年生のC（0.3以上0.7未満）の割合が30.1%と高く、視力低下の境目はこの時期にあると言えるのではないのでしょうか。体の成長と同じように眼球も変化します。身長が伸びている成長期は、視力も低下する時期であるため、注意が必要です。デジタル機器の使用頻度が上がり、眼の筋肉の緊張が続いた状態にならないよう、予防することが必要です。



本校全体の結果を、県・全国のデータと比較してみました。裸眼視力A（両眼1.0以上）の割合は、県・全国を下回り、B（0.7以上1.0未満）、C（0.3以上0.7未満）の割合は、県・全国を超えています。D（0.3未満）については、わずかではありますが下回りました。

この結果により、本校児童の視力は良くない状況にあると考えます。今後は、さらに視力低下を予防する取組の強化が必要と考えます。

ちよつと一休み

豆知識

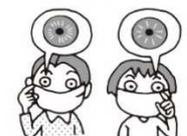
#### 目に隠された情報とは？



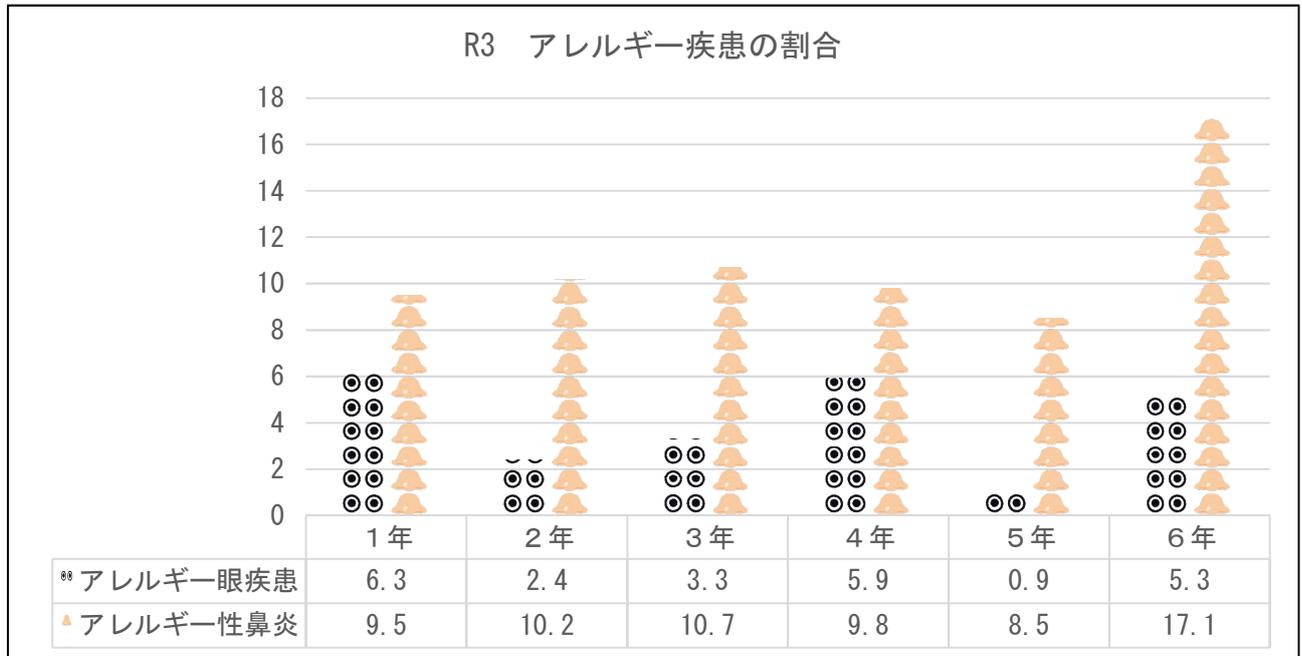
スパイ映画で、目をカメラにかざして認証されると部屋の鍵が開く、なんていうシーンを見たことはありませんか？ これは目を使ったセキュリティシステムで、実際に外国の空港などで本人確認に使われ始めています。では一体、目のどの部分で人を見分けているのでしょうか？ 鏡で少し、自分の目を見てみてください。真ん中の黒い丸の周りに、

ドーナツ状の場所がありますね。ここが「虹彩」。よく見ると、細かい線状の模様が入っていませんか？ 虹彩の模様は一人ひとり違って、この情報をもとに個人を特定できるのです。

機械に触れることなく、マスクをしていても利用できるのも、これからもっと身近なシステムになっていくかもしれませんね。

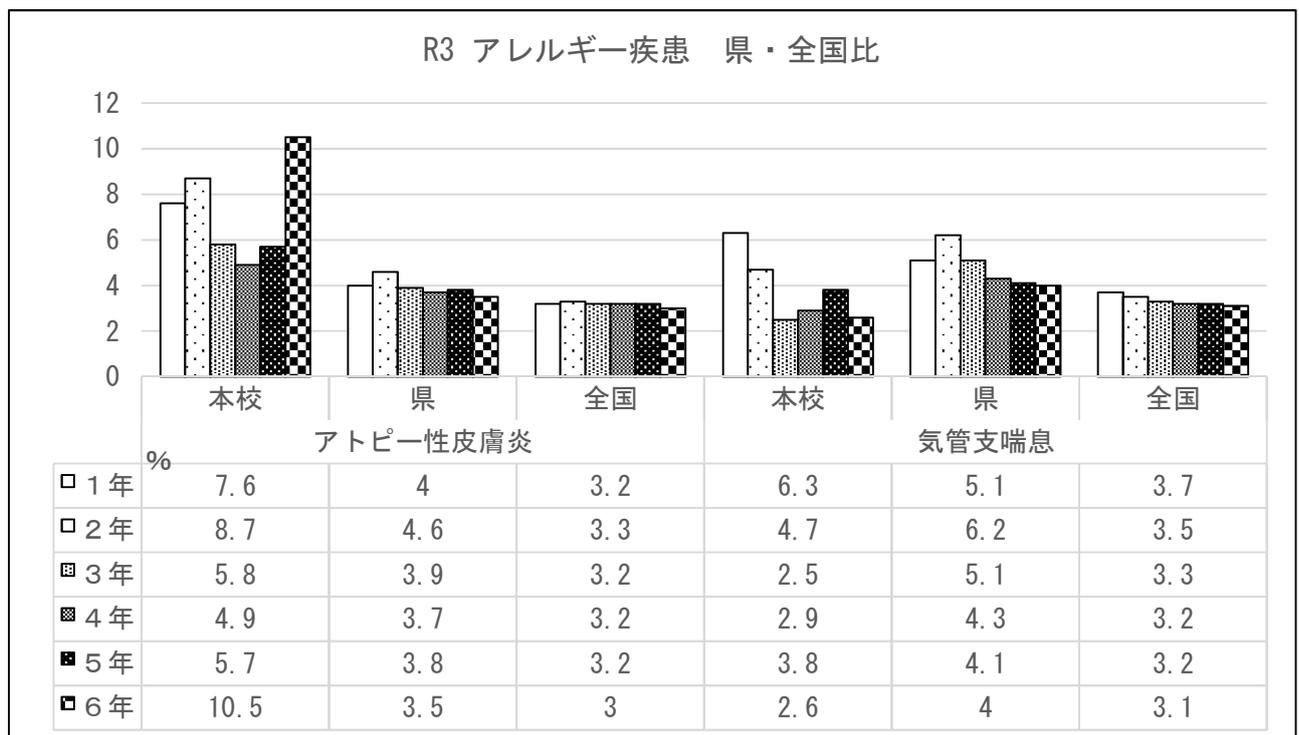


#### 4 アレルギー疾患について



アレルギー性眼疾患およびアレルギー性鼻炎の割合について、本年度の定期健康診断の際に、学校医（眼科・耳鼻科）に指摘された児童および保健調査票に記入のあった児童を調べました。（※花粉症と記入のあった児童は含みません。）

実施には、このデータを上回る児童が、アレルギーにより眼や耳鼻咽喉の症状があるものと考えます。

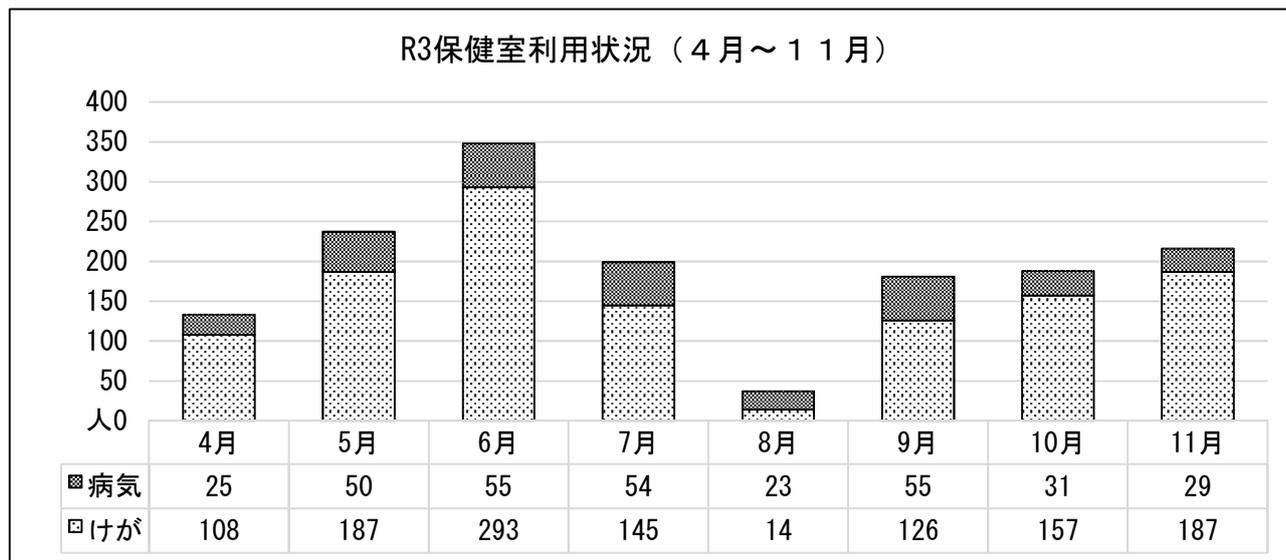


アトピー性皮膚炎、気管支喘息の既往がある児童を保健調査票を活用し、県・全国のデータと比較しました。アトピー性皮膚炎については、本校児童の罹患率は高く、どの学年も県・全国の平均値を超えています。特に6年生の罹患率は高くなっています。

気管支喘息については、1、2年生以外の学年では、県・全国の平均値を下回っています。現代の子供たちのアレルギー疾患の有病率は高くなっており、本校でもその傾向がみられると考えます。

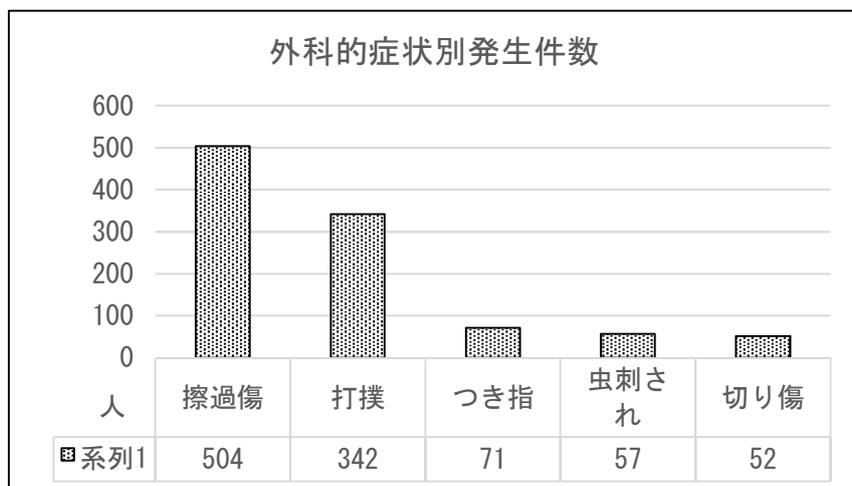


#### 4 保健室利用状況について



本校が開校した4月～11月までの保健室の利用状況をまとめてみました。授業日が最も多い6月（授業日：22日）の利用件数は348件（けが・病気の合計）で最も多い結果となりました。8月を除く7か月の平均利用件数は、外科的の症状が172件、内科的の症状が42件、日本スポーツ振興センター災害給付金支給の事務手続きは、7件でした。

月別の発生状況を見ると、外科的の症状の訴えが圧倒的に多くみられます。しかし、8月についてみると、利用件数は少ないものの、内科的の症状が外科的の症状を上回りました。気温が高く熱中症予防のため外遊びができなかったことや、夏休み明けの体調不良がみられたことが要因と考えます。



外科的の症状のうち、どのような症状で保健室を利用するのか調べてみました。

最も多いのが擦過傷（すりきず）の504件、次いで打撲の342件、つき指、虫刺されと続きます。

外科的の症状の発生しやすい状況は、業間や昼休みなどの休憩時間、教科では体育・理科の実験・家庭科の調理実習などで発生しています。



本年度は、運動会が中止となり代替え行事として各学年でのスポーツデーが実施されました。スポーツデーで行われたドッジボールの練習中には、つき指で来室する児童が増えましたが、各学年とも当日は外傷での保健室利用者はほとんどいない状況でした。家族の応援が程よい緊張感を招き、ケガの防止に繋がったのではないのでしょうか。

子供たちは元気に毎日外で体を動かしています。業間や昼休みは唯一の息抜き。我先に校庭に駆け出す姿は、微笑ましく思います。自分の体に関心を持ち、健康な体づくりのために自主的に行動を起こすことができるように、教育活動の様々な場面を通りて、子供たちの知識理解を深めていけるよう、働きかけを強化していく必要があると考えます。

